

桂川だより

26年度 11月
特別号
京都市立桂川小学校
校長 奥田 直孝



学校評価アンケート集計結果

第1回学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

本校では、京都市の「学校評価支援システム」を活用して、年に2回学校評価を実施しています。システムにより、アンケート用紙の作成、集計、データの処理を行い、児童や保護者の皆さまからのアンケート結果が、客観的な評価となるように努めています。

また、アンケート結果の分析から、実現度の高いものについては本校の強み、長所として今後も引き続き取組を進めていくと共に、実現度の低いものについては、その原因を考え、ご家庭や地域の皆さまのご理解とご協力も得ながら、改善のための取組を進めていきたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の保護者アンケートでお尋ねさせていただいた項目は、以下の通りです。どの項目についても、「重要である」「やや重要である」を合わせると、重要度は97～100%でした。それに対して、実現度が特に低いものや保護者の方と子どもたちとで「できている」という認識に差があるものについては、本校の課題ととらえ、それらの項目についてこの紙面でお伝えしていきます。

【確かな学力】

- 1 子どもに基礎的な学力がつくこと
- 2 自分から進んで学習する子どもに育つこと
- 3 子どもが自分の思いを伝えられること
- 4 教師がわかりやすい授業をすること
- 5 子どもに家庭学習に進んで取り組む習慣がつくこと
- 6 子どもに読書習慣がつくこと

【豊かでたくましい心・健やかな体】

- 1 子どもが楽しく学校に通っていること
- 2 子どもが物事の良し悪しを判断して行動できること
- 3 子どもが元気よくあいさつできること
- 4 子どもがきまりや約束を守って生活すること
- 5 子どもに思いやりの心が育つこと
- 6 子どもが毎日朝食をとること
- 7 子どもが適切な睡眠時間をとること

【学校・家庭・地域の連携】

- 1 学校の教育方針や考えが保護者に伝わること
- 2 学校のホームページや学校だより、学年・学級だよりなどで学校の様子がわかること
- 3 子どものことについて担任や学校に相談できること
- 4 学校が保護者や地域の方々と交流を深め、開かれた教育活動を進めていること

学校評価結果から見える 本校の課題

本校では、教育目標「夢をもち 自ら考え 正しく判断し すすんで行動できる子ども」を達成するために、教職員が一丸となって取り組んでいます。また、保護者・地域の方々にも本校の教育方針をご理解いただき、様々な場面でご協力をいただいています。その成果として、「学校生活が楽しい」と答えた子どもたちは9割を越え、保護者の方々の実現度も「よくできている」「大体できている」を合わせると、約9割になります。

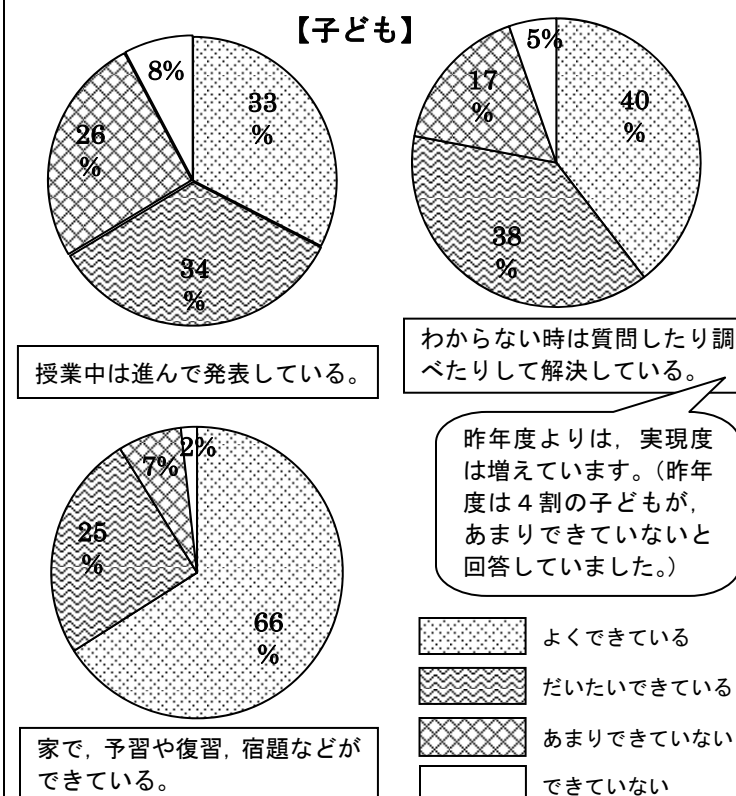
しかしその一方で、子どもたちは「できている」と思っている、保護者の方々から見ると「まだまだできていないことが多い」と感じておられる項目もいくつかあります。その中でも顕著なのは、「自分から進んで学習する子どもに育つこと」と「子どもが元気よくあいさつできること」です。

おとなとしては「言われなくても自分から進んで学習に取り組んでほしい。」「学校だけではなく、地域でも進んで気持ちよくあいさつしてほしい。」と願っているのですが、自分はちゃんとやれている、と思っている子どもにそのような力を育てていくのはなかなか難しいようです。

いずれも本校教育目標の「すすんで行動できる子ども」に関わる部分です。私たちはどうしてもできていないことに目が行きがちですが、少しでもできていること、できるようになったことを認めて褒め、どうすればよいのかの見本も示しながら、根気強くくりかえし働きかけていくことが大切であると考えています。

自分から進んで学習に取り組める子どもに

下のグラフは、子どもたちへのふり返し（前期）アンケートの集計結果です。

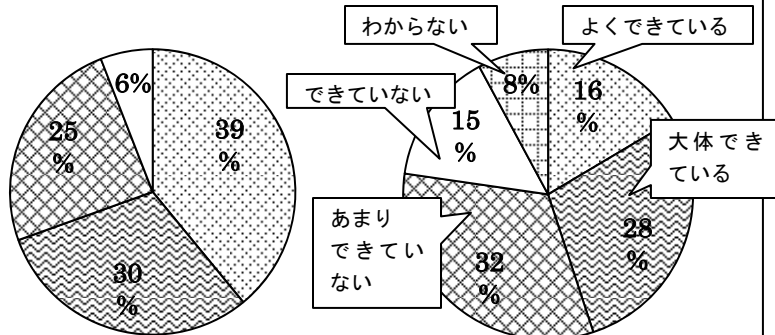


約4分の3の子どもたちは授業に積極的に参加していると答え、家庭学習にしっかり取り組んでいると思っている子どもは9割を越えています。しかし「自分から進んで学習する子どもに育っている」という保護者の回答は5割強。「子どもに、家庭学習に進んで取り組む習慣がついている」とお答えいただいた保護者は5割を切っています。

保護者は、我が子が進んで学習に向かっているかどうかを、日常の家庭学習に向かう姿を見て判断されるでしょう。「宿題以外は何もしない。」「自主勉強がきちんとできているとは思えない。」という声も聞かれます。

家に帰ってからどんな学習課題に取り組むかについては、意欲的に取り組めるような働きかけをしつつ、具体例を示しながら各学級の方で引き続き指導していきます。ご家庭では、睡眠時間の確保やテレビ・ゲームに向かう時間の管理を含め、集中して学習課題に向う時間の確保と環境作りをお願いしたいと思います。

生活の中で読書に親しむ習慣を



【子ども】読書が好きで本をたくさん読んでいる。

【保護者】子どもに読書の習慣がつくこと

子どもたちは、7割近くが「読書が好きで本をたくさん読んでいる」と答えています。子どもに読書習慣がついていると回答された保護者は、半数にも満たないという現状があり、わからないと答えておられる方も8%あります。朝のぐんぐんタイムや図書の時間には読書をしていても、おうちで本に向かっている姿はあまり見ない、ということかもしれません。

4月に実施された6年生対象の全国学力・学習状況調査では、【児童質問紙】の中で読書について尋ねる項目がありました。「授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間読書をするか」、「学校図書館や地域の図書館にどれくらい行くか」という質問では、本校は両方とも全国と京都府を下回っていました。かと言って、テレビを視聴したりゲームをしたりする時間が全国や京都府に比べて多いというわけではなく、むしろやや少ないという結果でした。意外に思われるかもしれませんが、家で宿題や予習・復習をしていると答えた6年生が、全国・京都府平均よりも多く、学習塾に通っている子どもの数も、全国・京都府平均を上回っています。他の勉強や習い事に忙しくて、読書にまで時間がさけないという状況が生まれているのでしょうか。

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠かせないものであると言われています。

まず周囲のおとなが短時間でも本に向かう時間を生活の中につくりだし、子どもたちと読書の楽しさを共有していただけたらと願っています。

自由記述欄より

登下校時のあいさつ・見守り

毎年いただくご意見で、今年度も一番多かったのは、学校ではできているあいさつが登下校時にはできていない、というものでした。これは、表面にも書かせていただいた通り、本校の課題の一つです。地域でも進んであいさつができるよう、学校・家庭・地域が連携しながら粘り強く働きかけていく必要があります。各ご家庭でも、子どもたちへの声かけをお願いします。

また、見守り隊の方々が毎日立っておられて大変だ、交替制にできないか、というご意見もありました。見守り隊は、基本的にどなたかが毎日立っていただくことを前提として、発足会の会議の中で、どなたがいつどこを担当していただくかについて話し合われました。人数が足りずにご無理をお願いした方々もいらっしゃいますが、子どもたちが安全に下校できるように、ということで本部役員の方々も含めてご協力くださっています。そのような状況ですので、見守り隊としてご協力いただける方がありましたら、是非学校の方までお知らせください。

また、ダスキン前の交差点の信号が非常に危険である、というご指摘をいただきました。現在、「時差式信号」という表示を付けていただく方向で、地域と警察署の方が調整中であると聞いています。

本校体育館の改修工事について

体育館の改修工事について、保護者には具体的なことが知らされていない、というお声がありました。

この工事については、「学校体育施設開放事業」により常時体育館を使用されている体育振興会などの関係各位とも連絡を取り合って進めていくこととなりますが、まだ未確定な部分が多く、決定事項は10月に保護者向けのプリントでお知らせしたとおりです。詳細が決定しました折には、その都度保護者の皆さまにもお知らせしていきます。今後、児童ならびに保護者の皆さまには何かとご不便をおかけするかと思いますが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

～平成26年度全国学力・学習状況調査の結果より～

4月22日に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

この調査は、全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施されました。6年生の調査には、国語A・B、算数A・B、があり、Aは、身に付けておかないと後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活に不可欠で常に活用できるようになってほしい知識についての出題、Bは、知識や技能を実生活の様々な場面に活用する力などが出題されています。また、児童質問紙により、学習に対する意欲や学習方法、学習に向かうための生活環境などの調査も行われました。

【国語】

Aはほぼ全国平均レベル、Bは全国平均を上回った。漢字の読み書き、「話す・聞く」領域については概ねよくできているが、自分の立場や根拠をはっきりさせて自分の考えを発表することや「書くこと」については弱さが見られる。授業の中で「聞く」「話す」「書く」に連続性を持たせ、目的を意識して書く活動を積み上げていきたい。また国語辞典の活用も習慣づけたい。

【算数】

A・B共に全国平均レベルであった。整数・小数・分数の計算は概ねできているが、四則混合の計算や立体図形の問題につまずきが見られた。自分はどのようにその問題を解決したのかを説明するために、問題文や資料から、その解き方の根拠となる事柄をとらえ、なぜそう判断したのかを的確に表現する力に弱さが見られる。粘り強く取り組む力を伸ばし、活用力を高めていきたい。

【児童質問紙】

基本的な生活習慣や自己肯定感は良好である。学習に対しても真面目に取り組もうとする態度がうかがわれる。しかし、地域や社会に対する関心やより困難な課題に取り組もうとする意欲の面から、言われたことに対してはまじめに努力するが、自分から進んで、あるいは物事に対して工夫しながら粘り強く取り組むことがやや苦手な傾向にあると言える。